

シラバス

事業者名 医療福祉人材センター

| 科目名 | ① 職務の理解 | | | |
|--------------------|--|-------|-------|--|
| 指導目標 | 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。 | | | |
| 項目名 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 講義内容・演習の実施方法等 |
| 多様なサービスの理解 | 3 | 3 | 0 | ①介護保険サービス(居宅、施設) ②介護保険外サービス |
| 2 介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 3 | 3 | 0 | ①居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ②居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ ③ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 視聴覚教材を活用し介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。 |
| 合計 | 6 | 6 | 0 | |

シラバス

事業者名 医療福祉人材センター

| 科目名 | ② 介護における尊厳の保持・自立支援 | | | |
|---------------|--|-------|-------|--|
| 指導目標 | 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。 | | | |
| 項目名 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 講義内容・演習の実施方法等 |
| 1 人権と尊厳を支える介護 | 5.5 | 1.5 | 4 | (1) 人権と尊厳の保持 ①個人としての尊厳②アドボカシー③エンパワメントの視点④「役割」の実感⑤尊厳のある暮らし⑥利用者のプライバシーの保護 (2) ICF ①介護分野におけるICF (3) QOL ①QOLの考え方②生活の質 (4) ノーマライゼーション ①ノーマライゼーションの考え方 (5) 虐待防止・身体拘束禁止 ①身体拘束禁止②高齢者虐待防止法③高齢者の養護者支援 (6) 個人の権利を守る制度の概要 ①個人情報保護法②成年後見制度③日常生活自立支援事業 |
| 2 自立に向けた介護 | 3.5 | 0 | 3.5 | 1) 自立支援 ①自立・自律支援②残存能力の活用③動機と欲求④意欲を高める支援⑤個別性／個別ケア⑥重度化防止 (2) 介護予防 ①介護予防の考え方 |
| 合計 | 9 | 1.5 | 7.5 | |

シラバス

事業者名 医療福祉人材センター

| 科目名 | ③ 介護の基本 | | | |
|-------------------------|--|-------|-------|--|
| 指導目標 | 1 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 2 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 | | | |
| 項目名 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 講義内容・演習の実施方法等 |
| 1 介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 2.5 | 1.5 | 1 | (1) 介護環境の特徴の理解 ①訪問介護と施設介護サービスの違い②地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ①重度化防止・遅延化の視点②利用者主体の支援姿勢③自立した生活を支えるための援助④根拠のある介護⑤チームケアの重要性⑥事業所内のチーム⑦多職種から成るチーム (3) 介護に関わる職種 ①異なる専門性を持つ多職種の理解②介護支援専門員③サービス提供責任者④看護師等とチームとなり利用者を支える意味⑤互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供⑥チームケアにおける役割分担 |
| 2 介護職の職業倫理 | 0.5 | | 0.5 | 職業倫理 ①専門職の倫理の意義②介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)③介護職としての社会的責任④プライバシーの保護・尊重 |
| 3 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 1 | | 1 | 1) 介護における安全の確保 ①事故に結びつく要因を探り対応していく技術②リスクとハザード (2) 事故予防、安全対策 ①リスクマネジメント②分析の手法と視点③事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告等)④情報の共有 (3) 感染対策 ①感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断)②「感染」に対する正しい知識 |
| 4 介護職の安全 | 2 | 1.5 | 0.5 | 介護職の心身の健康管理 ①介護職の健康管理が介護の質に影響②ストレスマネジメント③腰痛の予防に関する知識④手洗い・うがいの励行⑤手洗いの基本⑥感染症対策 |
| 合計 | 6 | 3 | 3 | |

シラバス

事業者名 医療福祉人材センター

| 科目名 | ④ 介護・福祉サービスと医療との連携 | | | |
|---------------------|---|-------|-------|---|
| 指導目標 | 介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 | | | |
| 項目名 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 講義内容・演習の実施方法等 |
| 1 介護保険制度 | 4.5 | 1.5 | 3 | (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ①ケアマネジメント②予防重視型システムへの転換③地域包括支援センターの設置 ④地域包括ケアシステムの推進 (2) 仕組みの基礎的理解 ①保険制度としての基本的仕組み②介護給付と種類③予防給付④要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ①財政負担②指定介護サービス事業者の指定 |
| 2 医療との連携とリハビリテーション | 1.5 | | 1.5 | ①医行為と介護②訪問看護③施設における看護と介護の役割・連携、④リハビリテーションの理念 |
| 3 障害者総合支援制度およびその他制度 | 3 | | 3 | (1) 障害者福祉制度の理念 ①障害の理念②ICF(国際生活機能分類) (2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ①介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3) 個人の権利を守る制度の概要 ①個人情報保護法②成年後見制度③日常生活自立支援事業 |
| 合計 | 9 | 1.5 | 7.5 | |

シラバス

事業者名 医療福祉人材センター

| 科目名 | ⑤ 介護におけるコミュニケーション技術 | | | |
|-----------------------|--|-------|-------|---|
| 指導目標 | 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。 | | | |
| 項目名 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 講義内容・演習の実施方法等 |
| 1 介護におけるコミュニケーション | 4.5 | 3 | 1.5 | (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ①相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮②傾聴③共感の応答 (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ①言語的コミュニケーションの特徴②非言語コミュニケーションの特徴 (3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ①利用者の思いを把握する②意欲低下の要因を考える③利用者の感情に共感する④家族の心理的理解⑤家族へのいたわりと励まし⑥信頼関係の形成⑦自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする⑧アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い (4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術②失語症に応じたコミュニケーション技術③構音障害に応じたコミュニケーション技術④認知症に応じたコミュニケーション技術 |
| 2 介護におけるチームのコミュニケーション | 1.5 | 0 | 1.5 | (1) 記録における情報の共有化 ①介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ②介護に関する記録の種類③個別援助計画書(訪問・通所・入所・福祉用具貸与等) ④ヒヤリハット報告書⑤5W1H (2) 報告 ①報告の留意点②連絡の留意点③相談の留意点 (3) コミュニケーションを促す環境 ①会議②情報共有の場③役割の認識の場(利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼)④ケアカンファレンスの重要性 |
| 合計 | 6 | 3 | 3 | |

シラバス

事業者名 医療福祉人材センター

| 科目名 | ⑥ 老化の理解 | | | |
|----------------------|--|-------|-------|--|
| 指導目標 | 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。 | | | |
| 項目名 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 講義内容・演習の実施方法等 |
| 1 老化に伴うこころとからだの変化と日常 | 3 | 1.5 | 1.5 | (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ①防衛反応(反射)の変化②喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ①身体的機能の変化と日常生活への影響②咀嚼機能の低下③筋・骨・関節の変化④体温維持機能の変化⑤精神的機能の変化と日常生活への影響 |
| 2 高齢者と健康 | 3 | 1.5 | 1.5 | (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ①骨折②筋力の低下と働き・姿勢の変化③関節痛 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ①循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)②循環器障害の危険因子と対策③老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症)④誤嚥性肺炎⑤病状の小さな変化に気付く視点⑥高齢者は感染症にかかりやすい |
| 合計 | 6 | 3 | 3 | |

シラバス

事業者名 医療福祉人材センター

| 科目名 | ⑦ 認知症の理解 | | | |
|------------------------|---|-------|-------|--|
| 指導目標 | 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。 | | | |
| 項目名 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 講義内容・演習の実施方法等 |
| 1 認知症を取り巻く状況 | 2 | 1.5 | 0.5 | 認知症ケアの理念 ①パーソンセンタードケア②認知症ケアの視点(できることに着目する) |
| 2 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 1 | 0 | 1 | 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ①認知症の定義②もの忘れとの違い③せん妄の症状④健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア)⑤治療⑥薬物療法⑥認知症に使用される薬 |
| 3 認知症に伴うことからの変化と日常生活 | 2 | 1.5 | 0.5 | (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ①認知症の中核症状②認知症の行動・心理症状(BPSD)③不適切なケア④生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 ①本人の気持ちを推察する②プライドを傷つけない③相手の世界に合わせる④失敗しないような状況をつくる⑤すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること⑥身体を通じたコミュニケーション⑦相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する⑧認知症の進行に合わせたケア |
| 4 家族への支援 | 1 | 0 | 1 | ①認知症の受容過程での援助②介護負担の軽減(レスパイトケア) |
| 合計 | 6 | 3 | 3 | |

シラバス

事業者名 医療福祉人材センター

| 科目名 | | ⑧ 障害の理解 | | |
|--|-----|---|-------|--|
| 指導目標 | | 障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。 | | |
| 項目名 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 講義内容・演習の実施方法等 |
| 1 障害の基礎的理解 | 1.5 | 1.5 | 0 | (1) 障害の概念とICF ①ICFの分類と医学的分類②ICFの考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 ①ノーマライゼーションの概念 |
| 2 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 | 1 | 1 | 0 | (1) 身体障害 ①視覚障害②聴覚・平衡障害③音声・言語・咀嚼障害④肢体不自由⑤内部障害 (2) 知的障害 ①知的障害 (3) 精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む) ①統合失調症・気分(感情)障害・依存症などの精神疾患②高次脳機能障害③広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害(4) その他の心身の機能障害 |
| 3 家族の心理、かかわり支援の理解 | 0.5 | 0 | 0.5 | 家族への支援 ①障害の理解・障害の受容支援②介護負担の軽減 |
| 合計 | 3 | 2.5 | 0.5 | |

シラバス

事業者名 医療福祉人材センター

| 科目名 | ⑨ こころとからだのしくみと生活支援技術 | | | |
|-------------------------------|--|-------|-------|--|
| 指導目標 | 1 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 2 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 | | | |
| 項目名 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 講義内容・演習の実施方法等 |
| 1 介護の基本的な考え方 | 1 | 1 | 0 | ①理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除)②法的根拠に基づく介護 |
| 2 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | 4 | 2 | 2 | ①学習と記憶の基礎知識②感情と意欲の基礎知識③自己概念と生きがい④老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因⑤こころの持ち方が行動に与える影響⑥からだの状態がこころに与える影響 |
| 3 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 5 | 3 | 2 | ①人体の各部の名称と動きに関する基礎知識②骨・関節・筋に関する基礎知識、 biomechanics の活用③中枢神経系と体性神経に関する基礎知識④自律神経と内部器官に関する基礎知識⑤こころとからだを一体的に捉える⑥利用者の様子の普段との違いに気づく視点 |
| 4 生活と家事 | 4 | 3 | 1 | 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ①生活歴②自立支援③予防的な対応④主体性・能動性を引き出す⑤多様な生活習慣⑥価値観 グループワークを活用し、生活支援の重要性を理解させる |
| 5 快適な居住環境整備と介護 | 4 | 3 | 1 | 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ①家庭内に多い事故②バリアフリー③住宅改修④福祉用具貸与 |
| 6 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 7 | 6 | 1 | 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ①身体状況に合わせた衣服の選択、着脱②身じたく③整容行動④洗面の意義・効果 |

| | | | | |
|---|------------|----------|------------|--|
| <p>7 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p> | <p>9.5</p> | <p>9</p> | <p>0.5</p> | <p>移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 ①利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法②利用者の自然な動きの活用③残存能力の活用・自立支援④重心・重力の働きの理解⑤ボディメカニクスの基本原理⑥移乗介助の具体的な方法(車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗・全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗)⑦移動介助(車いす・歩行器・つえ等)⑧褥瘡予防</p> |
| <p>8 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p> | <p>7</p> | <p>6</p> | <p>1</p> | <p>食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態のからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ①食事をする意味②食事のケアに対する介護者の意識③低栄養の弊害④脱水の弊害⑤食事と姿勢⑥咀嚼・嚥下のメカニズム⑦空腹感⑧満腹感⑨好み⑩食事の環境整備(時間・場所等)⑪食事に関した福祉用具活用と介助方法⑫口腔ケアの定義⑬誤嚥性肺炎の予防</p> |
| <p>9 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p> | <p>7</p> | <p>6</p> | <p>1</p> | <p>入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法①羞恥心や遠慮への配慮②体調の確認③全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方)④目・鼻腔・耳・爪の清潔方法⑤陰部清浄(臥床症状での方法)⑥足浴・手浴・洗髪</p> |
| <p>10 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p> | <p>9.5</p> | <p>9</p> | <p>0.5</p> | <p>排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ①排泄とは②身体面(生理面)での意味③心理面での意味④社会的な意味⑤プライド・羞恥心⑥プライバシーの確保⑦おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害⑧排泄障害が日常生活上に及ぼす影響⑨排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連⑩一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法⑪便秘の予防(水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる(腹部マッサージ))</p> |

こころとからだのしくみと生活支援技術

| | | | | |
|-------------------------------|-----|-----|----|---|
| 11 睡眠に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 2.5 | 1.5 | 1 | 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ①安眠のための介護の工夫②環境の整備(温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室)③安楽な姿勢・褥瘡予防 |
| 12 死にゆく人に関するこころとからだのしくみと終末期介護 | 2.5 | 1.5 | 1 | 終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援①終末期ケアとは②高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死)③臨終が近づいたときの兆候と介護④介護従事者の基本的態度⑤多職種間の情報共有の必要性 |
| 13 介護過程の基礎的理解 | 6 | 6 | 0 | ①介護過程の目的・意義・展開②介護過程とチームアプローチ |
| 14 総合生活支援技術演習 | 6 | 6 | 0 | (事例による展開) 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ①事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(1事例1.5時間程度で上のサイクルを実施する) ②事例は高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施 ※本科目の4～11の内容について、「14 総合生活支援技術演習」で選択する高齢の2事例と同じ事例を共通して用い、その支援技術を適用する考え方の理解と技術の習得を促す。 「こころとからだのしくみと生活支援技術」の4～11について、各演習時間内で技術習得度の評価を行う。チェックリストによりA～Dの4区分で評価を行い、A及びBの者を一定レベルに達している者とする。 |
| 合計 | 75 | 63 | 12 | |

シラバス

事業者名 医療福祉人材センター

| 科目名 | ⑩ 振り返り | | | |
|--------------------------|--|-------|-------|---|
| 指導目標 | 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。 | | | |
| 項目名 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 講義内容・演習の実施方法等 |
| 1 振り返り | 2 | 2 | 0 | ①研修を通じて学んだこと②今後継続して学ぶべきこと ③根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) |
| 2 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 | 2 | 2 | 0 | ①継続的に学ぶこと②研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例(Off-JT、OJT)を紹介 |
| | | | | |
| | | | | |
| 合計 | 4 | 4 | 0 | |